

小田原史談

第85号

発行所 小田原史談会
小田原市西栢山3310

年頭のことば

小田原市長 中井一郎



あけましてお目出とうございます。

小田原史談会が結成されてから、早くも二十三年目を迎え、益々ご発展しつつありますことを心からお慶び申し上げます。この間、郷土の歴史、文化の調査研究を初めとし、各種展示会の開催や史跡めぐりを行ない、さらに会報を発行するなど市民の郷土に対する認識を深めた業績は、私が今更申しのべるまでもなく多大なものがあり、唯々敬服の他ありません。私は市長就任とともに市の発展と市民福祉の向上



迎春の辞 会長 中井上英一

昭和五拾参年の新春を迎へ謹んで御祝詞を申し上げます。今年には戊午の年であります

古句に「人間万事塞翁が馬」と言う名句があります。これは人の一生の吉凶禍福が常にあざなえる繩の如く因が果となり果が因となることを示したものです。それに馬は人間と離れることの出発点にない関係にあるものですから昔から馬に関する諸神を祭る慣習がありました。

中で、一方においては伝統ある文化財保存の必要が叫ばれております。しかし、これら双方の調整は非常に困難なことが伴いますが、いずれにしても是非行われなければならないことであると思ひます。

このように時にあたり、小田原史談会々員各位におかれては各分野において調査研究をされ、伝統ある小田原の文化財の保存に努力されていることに対して心から敬意を表する次第であります。

ここに、希望に燃える新しい年を迎え、史談会各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ年頭のことばといたします。

先づ 春は馬祖(天驕と称する馬に關する星の名)を祭り 夏は先牧(初めて人に馬の放牧を教へた神の名)を祭る

秋は馬社(厩の中の土祇)を祭り 冬は馬歩(馬に災害をすする神の名)を祭る。

そして亦午は季節で言へば六月水無月と言ひ田植のころに当ります。

右の様な年でありますので今年もどうか諸先生方の御指導のもとに我等会員一同一致協力して郷土のために

お戻ししましょう。終りに臨み皆様方の御健康と御発展をお祈り申し上げます

曾我兄弟と

伝説の不動尊

神保 酉蔵

て新年の御挨拶に代へさせていただきます。

私は曾我別所に生れて、早八十才を越える程になった幼い時から父母や村の老人から曾我兄弟の伝説や史跡のことも聞かされていた。小田原史談会が結成されると、同好の人達と共に入会した。そして先ず地本の史跡を研究しよう、共に力を合せて、曾我地内にある史跡や筆者等が子供の折から聞かされていた、伝説等の事を調べて見たが、曾我城は、永禄二年四月より七月迄の間にととう滅亡されて城は勿論神社、寺々、曾我氏の菩提寺であった泉寺迄も失火に掛って焼失して了つたと云う伝説もあり古文書等は曾我中にはさらない。今ある物は、元禄以後のものばかりで、鎌倉時代の物は発見することが出来なかった。而かし、其伝説と連なる物が本年になって出て来た筆者の喜びは非常なものであつた、それだ曾我兄弟が母の満江御前に連れられて曾我家の人となつた、然し其の父が祖父祐親の従兄弟に當る工藤左エ門祐経に突然として討たれた其の悲しさが又父恋しさとなって、無念この上もなく感じ一万が八才箱王が六才ともなると父の仇工藤祐経を討たねば父への孝養が出来ないと云つて、兄弟心を一つにして大山不動尊を、曾我山の頂きに祠り、日参をしようとしましたが、道は遠く、又急坂ばかりで、幼ない子供にはとても無理なので、此山の鍔沢と云う大きな沢の入口に芝地があつた。此処ならよいと云うことで其処に堂宇を造り、石の不動尊を中に祠つて、前不動と称して、百日間の祈願を掛け兄一万は敵百倍の力を弟五郎は、敵百倍の力を授け給へと一心に祈願したと云う。此の話は筆者等が幼い時から父母に聞かされ

そして曾我兄弟の様に、親孝行の子になれと教えられたものであった。其様に教へられても其頃最早其不動尊はすでになく、話して聞かされるばかりであつたが、年を取ってから其事をよく研究して見ると古老達に聞けばたしかに、あつて五月廿八日にはお祭りがあり芝居神楽もあつたと云う。

然かし同好の人は皆筆者より年上の人ばかりで八十才を越えたりと病人になつたり人になつて了つた。私と云へども早八十才であるから生きて居る内に此不動尊の行方を知りたいと、谷津の部落の八十才以上の人を探して話して見たいと歩いて居る間に、同じ谷津の老人に逢つた。そしてその不動尊のことを聞いて見ると、いやそれは曾我中河原(梅林)のある部落の山裾にある瑞雲寺に行つて居るが、大正十二年の大地震で山が崩れて池に埋つて了つて居るが、今度寺の庫裡の新築の爲めに何としても埋つて居ると云う、古池を掘る事で明日私は墮下な者だから行かねばならないとの事であつた。筆者は飛上るばかりに喜び帰つて来た。

そして昭和五十二年(明七月廿八日)を待つたが其日は

何の知らせもないので廿九日墮下の家に行き聞いて見ると、神保さん出たよ、小さい石の不動様が出て、皆大喜びで、住職も非常に喜んで水でよく清めて、是れは其辺にやたらに置く可きものでないかと云つて、二階の自分の居間に持つて行かれたとの話であつた。筆者も非常に嬉しく思い重い足を氣力を込めてセッセと行つて住職に面会して、其不動尊を拜さして貰つたが感無量であつた。と云うことは筆者の家は神保こそ尊といはるが間違ひもない曾我太郎祐信の子孫であるので非常に懐かしく思へてならなかつた。住職の言に依れば、しかる可き所へ廻つて置きたいとの事であつた。そして、もう一つの不動尊が谷津の大光院にあることも知つた。曾我物語には、曾我山の裏手にある柳川不動尊を祈願して願文を上り動つたとあるが其村の人も今も其様に信じて居る。其ことは筆者も信じて居るが、柳川不動尊と云ふは柳川村の不動尊だけではない、曾我の上曾我にも柳川不動尊と云ふのがあつて兄弟は此処の不動尊にも祈願して願文も上げたと云う、然かし其願文だが昭和二十年迄はあつた様に聞いたが村役場にあるとか、いや農

協に行つて居るとか真実が不明である。だが其不動尊は明治十三年五月迄上曾我の舞戸と云う処に古くから柳川家があり其処の家敷つづきの地に、不動堂が今もある。だが明治十三年に村に悪い病いが流行して、村人が非常に難儀をした、村の役人達が寄集つて祈禱者に占つてもらつた処、村にある不動様を余りにも粗末にして置くから其の御怒りである、と云うことで早速戸を開けて見ると、是れはひどい、第一痛んでいてうかつは手も付けられぬので村役人は相談して、曾我谷津の大光院に預けて供養をして貰つて居る。

此の法印寺は、諸法山大光院実相寺と云つて曾我家四代祐春が世を長男の祐盛に譲つて僧となり曾我の屋形と云う隠居寺を建立して、先祖祐信公の守本尊と云う不動尊を本尊として、朝な夕なに益を誂じて供養して居たと云う。

曾我氏も時代が過ぎると、足利尊氏の家人として、大いに働き次第に重く用いられて数千貫の大名となつて榮えて行つた、十一代祐春の末の子に氏重と云うのが若くして僧となり諸國を巡りて十法を修め、曾我に帰つて来て祐春公の建てた大光

院を現在の谷津の法輪寺の入口右手に遷して本尊の不動尊を本尊として、今も毎年二月、年越の日にはお祭りがあつて賑やかである。曾我の松の話をすると、此の祐信公の守本尊と云う不動尊の右側に廻つて居るのが上曾我の柳川不動であつて、よく見ると同形のいかにも平安朝か鎌倉時代の形の様に見えるが、再色が明治十三年と云うので新しく見えるが形は確かに古先生方にもよく見て貰いたいと思う。未だ此の外にも十郎と虎御前の別れの時に泣く／＼植えたと言つた相生の松と云う松の太木があつた事を筆者見て知つて居る。そして根廻り大人三人でも廻らないと云う程の大松であつた、一本の松の木から黒松、赤松の大きな枝が生えていたが、明治四十四年子供の火遊びから、焼失して了つた。

村人が十郎虎御前と最後別れを悲しみ、男松(黒松)女松(赤松)と云われて居る、それを寄り合せて、此世の交りは短くともあの世に行つて何百年も御側場で暮らしましよと、泣き／＼植えた云うように、泣き後文士の谷津の尾崎一雄先生の父君八来先生の筆になる碑が立て、ある。

小田原史談会員、田村隆さんは木材研究家で戦争中から戦後にかけて有名であつて貴重な研究本を發行されて居たと云う。筆者が此の相生の松の話をする時、松の木は永くても五、六百年止りだと話された。だが筆者は、同じ松と云つても只、野山に植えたなら其様な事かも知れませんが。人間死の寸前に出来ることな

国鉄のトンネルと鉄橋の話

額田喜代春

わが國の国鉄は明治五年五月七日品川から横浜(現在の桜木町)まで一日二往復、所要時間三十五分を仮新橋まで延長されて、同年九月十二日(最初は九月九日に開業式を挙げる予定であつたが、相にく雨のため延期して十二日に挙行)に(現在の太陽曆に直すと十月十四日)新橋(現在の汐留貨物駅)から横浜まで開通して明治天皇さまも横濱まで御試乗になり、天皇陛下の臨御のもとに、盛大な開業の式典があげられ、国鉄ではこの日を「鉄道記念日」と定め、毎年お祝を

ら、一生二人は一処に生きていた。死んでも二人の魂は何百年も離れず居たいと心を込めて植えたと言つて居たのは違つた寿命から外の松とは違つたかと思つた。魂に角其松が自然に枯れて了つたのではなく、野火に焼けて了つたのだから実に残念至極である。

わが國の曆は明治五年まで太陰曆を使い、明治六年元旦から太陽曆に切り換えて明治五年十二月三日を明治六年一月とした。

◇吾が國、最初の鉄道トンネル

吾が國は、国土が狭く、海岸線の屈曲が多い上に

国鉄の十大トンネル

順位	名称	全長(米)	所在地		開通年月	備考
			線名	区間		
1	北陸	13,870	北陸	敦賀~今庄	昭和37.6	複線
2	清水	9,720	上越	土合~土樽	〃 6.9	単線
3	新丹那	7,959	新幹線	丹那トンネルの北側	〃 39.10	複線
4	丹那	7,804	東海道	熱海~函南	〃 9.12	〃
5	仙山	5,361	仙山	奥新川~山寺	〃 12.5	単線
6	南郷山	5,171	新幹線	小田原~熱海	〃 39.10	複線
7	深坂	5,170	北陸	近江塩津~新疋田	〃 32.10	単線
8	音羽山	5,016	新幹線	京都の東方	〃 39.10	複線
9	大原	4,980	飯田	大嵐~水窪	〃 30.11	単線
10	蒲原	4,934	新幹線	蒲原駅の北方	〃 39.10	複線

山地も海岸近くまで迫っており、河川は谷が深いので、鉄道敷設するには、良い条件とはいえない。

そこで、現在わが国鉄には総延長九百九十八キロのトンネルと八百一キロの鉄橋ができたのであった。

明治三年、大阪―神戸間の石屋川、住吉川、芦屋川の石屋川、住吉川は単線式であり、河川は谷が深いので、鉄道敷設するには、良い条件とはいえない。

石屋川トンネル(長さ六十一米)は吾が国では最初のトンネルで明治四年七月完成で、次いで明治十二年には長さ二キロ余りの逢坂山トンネルが日本人技師の手で始めて完成したのである。

それから中央線の笹子トンネルが九十三年の歳月を費して明治三十五年に開通して、昭和六年九月一日に

世界の十大トンネル(除く日本)

順位	名称	延長(米)	国名	山脈	開通年
1	シンブロン II	19,823	スイス・イタリア境	アルプス	1922
2	〃 I	19,802	〃	〃	1906
3	アペエン	18,506	イタリア	アペニン	1934
4	サンゴタルド	14,097	スイス	アルプス	1882
5	シツチェベルク	14,612	〃	〃	1913
6	モン・スニ	13,668	フランス・イタリア境	西アルプス	1871
7	カスケード	12,633	アメリカ	カスケード	1929
8	アールベルク	10,230	オーストリア	チロル	1884
9	モツアット	9,997	アメリカ	ロッキー	1828
10	リツケン	8,602	オーストリア	チロル	1910

清水トンネルが出来るまで約三十年間、日本一の大トンネルとしての王座を占めていたのであった。

大正時代以降、国鉄の歴史は、いわば、トンネル掘さく史ともいえるべきで、清水、丹那を始め、長大なトンネルが次々と開通している、中でも世界最初の海底トンネルである関門トンネルと、大正七年一月着工以来、十六年間の苦闘により数多くの話題を残して昭和九年十二月一日開通した丹那トンネル及び昭和七年に開通した清水トンネルは特筆すべきでありましょう。

また、北陸線敦賀―今庄間の北陸トンネルは、延長一万三千八百七十米で、當時としては世界第五位のトンネルで、昭和三十七年六月十日に開通したが、このほかに北海道と本州を結ぶ津軽海峡の海底トンネルが完成すれば、その長さは三十三キロを超える大トンネルとなる予定であるという。

国鉄の十大橋梁

順位	名称	全長(米)	所在地		開通	完成
			線名	区間		
1	富士川	1,374	新幹線	旧線の川下	昭和37.10	
2	阿賀野川	1,242	羽越	新津~京ヶ瀬	大正元.9	大正元
3	天竜川	1,209	東海道	磐田~天竜川	明治24.7	明治22
4	石狩川	1,074	札沼	宇谷口~石狩焼	〃 9.11	〃 9
5	大井川	1,018	東海道	島田~金谷	〃 22.7	〃 21
6	木曾川	1,001	新幹線	名古屋~羽島	昭和30.10	
7	大井川	998	〃	旧線の川下	〃	
8	揖斐川	992	関西	長嶋~桑名	明治29.11	明治28
9	利根川	964	常磐	我孫子~取手	〃 29.12	〃 29
10	吉野川	649	高德	吉成~佐古	昭和10.3	昭和10

次に国鉄の十大トンネルを次に掲げましょう、工事の中の新清水トンネル(単線四米)の二大トンネルがある。

このほか、有名なトンネルは、関門(下関・門司間(第十一位)、下り三千六百四十四米、上り三千六百五十六米)、冷水(第十二位、三千二百八十六米)、欽明路(第十三位、三千四百七十七米)がある。

また私鉄にも近畿日本鉄道に青山(三千四百三十米)、生駒山(三千四百九十米)の二大トンネルがある。

トンネルの掘さく方法には、さまざま方法があるが、最近では全断面掘さく法といって数本から百数十本のドリルジャンボという機械で、最初から所要断面を一挙に掘さくする方法がある。

世界の十大鉄橋

順位	名称	長さ(米)	場所	完成年
1	ルーンシン	19,082	グレートソルトレイク	1904
2	ヒューイP, ロング	7,082	ニューオールリーズ	1935
3	ベイ	6,925	サンフランシスコ湾	1936
4	ヘルゲート	5,862	ニューヨーク	1917
5	下ザンベジ	3,677	南領東アフリカ	1934
6	テイ	3,551	スコットランド	1887
7	ストルムトローム	3,212	デンマーク	1937
8	ヴィクトリア	3,136	モントリオール	1859
9	上ソネ	3,064	インド	1906
10	黄河	3,009	中国	1905

法が、地質の堅い場合にとられるようになった。このほか地質の軟弱な所ではジールド工法といって、鉄の筒を押し進めて行く方法、圧気灌函(ケーソン)法などが使用されている。

◎鉄橋の話

鉄橋とひと口にいつても橋梁は鉄製ばかりではなく初期には木橋も少なくはなかった、また石材やレンガを用いたもの、さらに新しくは、コンクリート製の橋

梁もあり、鉄橋という呼び方は必ずしも正しくはないが、習慣上、今日はずべて鉄橋と呼ばして頂きます。

吾が国では、最初の開業区間であった、新橋―横浜間には六郷川橋梁をはじめ大小四十有余の鉄橋があった、そして初めはすべて木橋であった、これは当時の建築師長(建設総監督)のイギリス人エドモンド・モレル氏が京浜間の鉄道は一日も早く開通させるのがよいとして、橋梁用鉄材はす

大衆演劇観劇考

芸術選奨会 柏木次郎

べてイギリスから到着するのを待たずに、沿線に産する木材によって架設したからです。

日本には大きな河はない

次いで国鉄と世界の十大鉄橋を掲げましょう。

私達が日常時々観劇する演劇は歌舞伎、能、新劇喜劇と色々多種多様である最近ではテレビの急速な普及率のため、大衆向けの味のある生の演劇を見ることはまれである、今から十数年以前は少なくとも広域地区に数か所の芝居が立ったのは記憶に残ることでしょう、然し最近では祭さえも少なくなってきた、此様に大衆演劇さえも少なくなってきたのも時代の流れではないか。

今日の文化では見るのも聞くも機械を通じてである、従って生で見る演劇は又別の感でもある。限られた舞台で演ずる世界を最大限に生かして又観客をのみ込むのである。

一人の人間が衣裳を変え化粧を変えて主人公あるいは脇役に没頭する様は演劇にかかせない独特の味であり

ので、鉄橋も一番大きなものでも一キロ米余りであった。

組みさらに戦後からつい最近に致る期間、浅草や全国にTV放映されたデン助の系統である、現在団員は二十有余名で構成され、此の中の大半の団員はデン助こと大宮敏充先生の主宰する大宮敏充芸能学院の生徒でもあり最後の門下生でもある、先生の亡き後は生徒達が自主的参画し同デン助劇団の長い劇作家生活を送った酒井俊先生を仰ぎ今日の喜劇集団「Uの会」の発足であります、酒井先生自身も浅草で長い間喜劇作家として活動し今浅草又芸能界(喜劇界)でその名を知らぬ者なしといったくらいの名士であります、又先生の門下生の多くは有名芸士であります、今日の浅草では大衆喜劇が一つ一つと消えて江戸情緒の名残りが少なくなってきた今日である

その中で大衆演劇を目差して今日も又頑張っている劇団です。

九月十五日の座間市主催の慰問公演は成功のうちに終り十一月の東京定期公演に備えてい、此外にも新宿厚生年金会館、俳優座公演として頑張ってきた劇団であります。

慰問公演は福祉(老人、身障)と一般入場者に見せて居ます、慰問会でするので入場は無料である、従って施

設の提供を下さった地区には時間の許す限り参加致して居ます、又劇団は、鳴海、鶴見両先生の演技指導も大変である従って自から出演も致して居ます。

近い内に小田原地区にも慰問公演を予定して居ます、近ごろ余り見ることのない大衆演劇をもっとも向上させ、かつての浅草喜劇をもう一度を願いに志を同じにする人は多く居ることでしょう。

人間の心に笑と涙をもう一度帰って来てほしいものです、従って私自身も大衆演劇を高い所からでなく大衆の目から見ると真に本當の意味の大衆演劇と言物を実現させたいものであります

そして老若問わず大衆演劇を愛して心に灯火をつけましょう。

郷土史の一ページとして記し過去の先輩の残した文化無形遺産を研究し且つ福祉に一助成す芸を、そして此等に依って老若問わずの平和を願うものであります

さらに大衆演劇の古代から現代に至る真の姿を今後数回に依り取材し紙面で発表致します、さらに慰問公演研究に付き皆様の協力をお願い致します。

つづく